

日経平均株価

▼430円45銭(前日比)

TOPIX
1572.44
▼28.22

2019
3/11
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL. 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



バイオ物色は中長期視野

再生医療を含め研究開発進展



日本の新薬開発力の評価が高まっている。間限定で承認されたアンジエス（4563）の1320円までの株価急騰だ。同社株を300円台の安値から注目していい。た株式評論家たる筆者は、理想買いの「高野恭壽氏」は一巡した。

大するごとで株価も運動して水準を上げていく」と指摘、同社では一過性の評価は終わらないとしている。

日経平均目足チャート



marketpress

双信電機ストップ高

週明け4日、双信電機（6938）がストップ高。ノイズ除去フィルター主力の電子部品中堅で、親会社の日本ガイシ（5333）と共同開発した積層誘電体フィルタは低損失小型という特長を活かしたアプリケーション開発で成長、5G向けは屋外基地局や小規模基地局向け積層誘電体フィルター

5Gでアンリツへの出遅れ感

を展開しており、先に急騰したアンリツ（6754）への出遅れ感が高まつた。

スズキはインド販売減

内田洋
79% 営業増益

4日、内田洋行（8
057）が急伸。1
9年7月期第2四半
期累計の連結決算を
発表。売上高は71

今週の動意銘柄

アダストリア既存店15%増

トリア(2685)が急伸。2月の月次売上高を発表。既存店で前年同月比14・8%増となつたことが好感された。平年と比べて、気温が高く推移したことによると合わせ、店頭の季節対応を強化したことでも、客数の伸長につなが

り、順調な春物の立ち上がりとなつた。コスモバイオ・G.L細胞 5日、コスモ・バイオ・G.L細胞 イオ（3386）が急伸。糖尿病などに関連のある血糖値抑制ホルモン「インスリン」の分泌を、生物発光の技術により高感度に測定することができ可能な細胞株「G.L細胞」を発売すると発表したことが材料視された。イン

スリン分泌量の測定やイメージングが高感度に行え、安価で有効な糖尿病治療薬の開発も期待される。

公開価格22%上回る

日本国土開発の初値
5日、日本国土開
発（1887）が東
証一部に新規上場、
公開価格510円を
22・3%上回る6
24円で初値が生ま
れた。土木・建築工
事の施工管理と建築

い ま す。週 明 け も へ
落 な ら 逆 行 高 銘 柄
打 診 買 い を 入 れ て
い 考 え で す。花 哈

般下には翁たみには

(前年同期比9・9 %増)、営業利益は
6億8500万円
(同7・9・3%増)
と大幅な増益となつたことが好感された。
インテル社製CPUの不足による影響から納入時期のピーク
が第1四半期から第2四半期へ延伸したものの、ICT関連
ビジネスはセグメントを横断して大幅に伸長している。

正直じいさんの株で大判小判

加速しました。安寄り後も先物への売りを交えて下げ幅を広げており、2月中旬貿易統計のも重しにななかで、7前引け後な時間外に先値を崩す場異なり、パはりませんで、海外市場異なり、パはりませんで、海外市場出動したいと出動したいとピックアップ9)は5日線、5日線近辺でなど上昇基調を維持します。週明けも全般下銘柄のイボキン(56アンリツ(6754)は下げ渋

企業觀察 不二電機工業(6654)

今1月期2ヶタ增收見込む

不二電機工業（6654）は7日の取引終了後、20年1月期の単体業績予想を発表、売上高は43億円（前期比10・0%増）、営業利益は4億500万円（同78%増）、純利益は2億6500万円（同4・2%減）と、19年1月期の売上高39億900万円（前の期比0・2%増）、営業利益3億7600万円（同29・4%増）、純利益2億7700万円（同14・1%増）に続いて增收増益を見込んでいる。年間32円配当を据え置いた。

同社は電気制御機器メーカーとして、電力・交通分野において社

欧洲やオセアニアで新規開拓

会インフラづくりの一端を担つて
おり、配電自動化子局用スイッチ
や表示モジュールが減少したもの
の、鉄道車両用尾灯などの表示
灯の採用が進んだほか、受変電設
備向け遮断器用補助スイッチや試
験用端子が増加している。今後は
電力・重電機器市場における既存
製品の販売拡大はもとより、海外
では東南アジアや中近東地域での
販売に加え、欧州やオセアニア地
域の新規開拓にも取り組み、海外
仕様に特化した付加価値とコスト
競争力の高い製品の開発・販売を
進めていく方針で、更なる飛躍が
期待される。

7日、東京工レク
トロン(8035)やSUMCO(343)
6)など半導体関連株の下落が目立つた。
前日の米国市場でマイクロンが5%超安と急落したほか、エヌビディアやインテルなども安く、国内ではルネサスエレクトロニクス(672)が大幅減産報道を受け、ストップ安に売られており、半導体市況悪化による

トップカルチャ20%増益
7日、トップカル
チャ一（7640）
が急伸。19年10
月期1Qの連結決算
は、営業利益1億1
800万円（同19・
6%増）と2ケタ増
益となつた。運営コ
スト見直しや、店舗
照明のLED化を進
めたことで、販管費
が大幅に削減された。

サンリオ急伸し新高値 「ハローキティ」ハリウッド映画化



サンリオの日足チャート

「・ブランズ映画が手掛け、海外のファンには初めてハローキティが映画館で楽しめることになる。

JINS 2月壳上好調

花粉対策用商品が好調に推移している。

日米共に新値三本足陰転

3月入りとともに株式市場は大きな変化が出て参りました。N Y ダウは昨年12月26日に新値三本足が陽転してから23本の陽線を積み上げてきましたが、先週月曜日に陰転となり、既に4本の陰線を連ねています。東京市場は先週木曜日にT O P I X の新値三本足が陰転し、週末金曜日には日経平均も三本足ならびに五本足が一気に陰転しました。

今回の下落が昨年12月安値に対する二番底形成であれば、足元の上昇に対する半値押しで2万0400円近辺。しかし、TOPIXとは波動を異にする日経平均は昨年の下降局面での波動が未消化となっており、1万8948円～2万1860円の上昇が下降4波だとすると、最終5波動目で1万8948円割れを目指すことになります。どちらの波動



半導体関連下げ目立つ

収益への影響を懸念した売りが広がった。

転ばぬ先のテクニカル

日々勇太朗

相場展望

いづれにしても日経平均は、新たな長期波動を模索する展開に入つたものと判断する。

国際急落してダブル天井となつた。二つの天井値の差はわずか146円で、相場の始まりと終了の差もわずか119円であつた。現在、日経平均は安値から上昇過程にあり、昨年10月の高値と12月の安値の差5115円の2分の1の戻りを達成している。また昨年10月以降の移動平均線を検証すると、25日線は10月23日から明確に下降曲線を描き、25日線が75日線を上から下に突き抜けたのは11月2日の2万2689円であった。そして25日線が200日線を下に突き抜けたのが11月8日の2万2364円でデッドクロスを形成した。その後、日経平均は12月25日まで急落した。そして25日線は、今年の2月1日に下降曲線から上昇曲線に変化し、3月5日には75日線を下から上に突破し、次のターゲットの200日線を突破すると

日経平均株価の長期上昇相場は、リーマンショックでの安値である2009年3月10日の7054円から始まり、昨年の10月2日の高値2万4270円まで約10年で2・44倍に上昇した。そして昨年の日経平均のチャートにおいて明確にダブル底を形成し長期の上昇相場は終了した。1つ目の山は2017年9月8日の1万9274円から始まり、翌年1月23日の2万4124円まで上昇した。2つ目の山は、昨年3月23日の2万0617円まで調整した後、10月2日の2万4270円ま

テクニカルアナリスト
武藏 宗久 氏

長期上昇相場は終了

国内外13工場を生産停止
7日、ルネサスエレクトロニクス（6723）が急落、ストップ安まで売られた。日本経済新聞が「国内外の13工場で生産停止に踏み切る」と報じたことで、収益への影響を警戒した売りがかさんだ。

車載向け半導体など国内の主要6工場は最大2カ月という異例の長期間になる。海外4工場でも数週間、操業を止める方針だ。2019年度川崎汽船（9107）が急落、東証一部に立つた。週末8日、川崎汽船（9107）が急落、東証一部に立つた。7日取引終了後、19年3月期の連結業績予想について、営業損益を50億円の

川崎汽船 下りトップ

川崎汽值下りトップ

赤字から210億円の赤字（前期72億円900万円の黒字）へ、最終損益を200億円の赤字から100億円の赤字（同103億8400万円の黒字）へ修正した。傭船に關する損失引当を計上したこと、足元でのドライバルク船市況低迷影響を織り込んで

「西海衛星発射施設」の発射台再建作業が急速に進み、「正常な稼働状況」に戻ったとみられる。トランプ大統領の今後の対応次第では地政学リスクが急速に高まる懸念が関連株への買いを誘発した。

だことが要因。

の生産は18年度比で1割超減る見通し。中国で自動車や工作機械向けの需要が想定外に減つており、在庫水準を適正化するという。

今週の動意銘柄

潮流

金融危機は起こらない 中国の対応の早さを見習うべき



米S&P500種株価指数がおよそ4カ月ぶりに節目の2800ポイントを上回った。多くの機関投資家が運用指標とする同指数が明確に節目を超えてくれば、さらに投資資金を呼び込む可能性がある。

米国は年明けからの上昇基調でダウ平均は昨年10月に付けた過去最高値(2万6828ドル)まで587ドルに迫った。1月2日から2カ月間で実に3183ドル(13.8%)も上昇した。ただ、25日騰落レシオが160%を越え、ここまで上昇すると利益確定や持ち高調整の売りが出るのは当然だろう。

パウエルFRB議長が利上げと資産縮小を年内に停止する方向で検討していると述べたことから金融政策の引き締めが終了に向かうことを株式市場は好感した。さらに米中の貿易戦争が収束に向かっていることで金融リスクが急速に低下、米VIX指数(恐怖指数)は13%台まで急低下して株式市場に資金が流入した。昨年の急落相場の要因は、金利上昇リスクにあった。現状は大幅な金利上昇リスクが乏しい。だから、RENTやハイイールド債が買われているのだ。

外国人投資家から日本株に対する強気なコメントをあまり聞かない。消費増税後の景気悪化

はもちろん発生するが、過去のような経済危機にはならないだろう。なぜなら積極的な流動性供給政策が行われており、日銀当座預金の超過準備が大量に積み上がりつつある状況では、信用リスクの悪化にも限界がある

からだ。つまり、経済危機で発生する流動性危機と、それに付随する金融システム崩壊リスクは現状の日銀の政策によりほぼ消滅しているため、過去のような金融危機は起こりようがないのだ。

また、米国以上に中国株式市場の上昇が顕著だ。上海総合指数は3000ポイントの大台に乗せ、1月4日からの上昇率は28.2%にも達している。この上昇率をそのまま日経平均に当てはめると2万5200円となる。アベノミクスが始まつて以来の高値更新となる。中国の李克強(リー・クオーチャン)首相は全人代で企業向けを柱として2019年に2兆元(約33兆円)規模の減税を実施する方針を打ち出した。地方政府がインフラ建設に充てる債券の発行枠も積み増す計画だ。日本も中国の対応の早さを見習うべきだ。

潮流銘柄はブロードバンドタワー(3776)、イーレックス(9517)、栄研化学(4549)。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて優勝。1ヶ月間にかけ約1万人の参加者のなかで3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行っている。<http://marketbank.jp>

日銀が積極的流動性供給



チャート から読む 脱落銘柄

日産東京販売(8291)



1月31日安値301円を底に上昇基調続く。出来高も増加傾向で昨年12月14日の347円や11月9日の358円を抜ければ、10月2日の昨年来高値369円奪回が見えてくる。

ファイバーGT(9450)



週足陽転の後、1900円がらみでの保ち合いを経て上放れ。通信機器開発からWi-Fi環境構築、運用、顧客サポートまでの一気通貫サービスによる成長性への評価が高まり、青空相場を一段高へ。

あみやき亭(2753)



3月末の優待・配当狙いの買いが下支え要因ながら上値は重く、権利落ち後は昨年12月25日の安値3255円が意識される展開か。2月既存店は昨年8月以来のプラスながら未だ底打ち感見えず。

enish(3667)



大勢下降トレンドのなか、5日線に上値を抑えられ、下値模索続く。オリジナルタイトルの開発コスト重く赤字継続。信用買い残の整理も進まず、16年に付けた上場来安値383円も視野。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



IMV(7760)

環境対応車受託試験増える

IMV(7760)の株価は300円台前半での底値揉み合いをへて出来高を交えて上昇基調に転換、400円抜けから昨年10月1日の高値449円を目指す展開に期待したい。

目増車連など環境対応車連が伸長、EV関連機による試験大型化を受け、上野原高度試験センターや大阪テストラボの大型機による試験見込む。試験対象品の増益を大幅な増益を見込む。

振動試験装置・計測装置の世界的企業で自動車や鉄道車両、発電所向けなど安全性を追求する様々な分野で同社の技術が利用されている。自動車関連業界を中心に全自動省エネ運転が可能な振動試験装置(EIMシリーズ)を組み合わせた複合試験装置が堅調に推移しており、19年9月期は通期連結営業利益で12億円(前期比39.8%増)と大幅な増益を見込む。

今9月期40%増益見込む



Ibokin(5699)

総合リサイクルで高成長へ

Ibokin(5699)は昨年8月にジャスダックスタンダードに上場したIPOで、10月に付けた最高値302円から12月の最安値130円までの下落に対する半値戻しを達成、全値戻しへ向け足もとが固めてきた。

解体、スクランブルのリサイクル、廃棄物処理を一貫して手掛け、産業廃棄物や金属類を自社中間処理工場で再資源化、販売までを行う。前期は市況変動の影響を受け、小幅増益にとどまつたが、19年12月期は連結営業利益4億500万円(前期比44.4%増)と大幅増益を予想。

高経済成長期に建設されたビルや倉庫、工場などが更新・撤去の時期を迎えたときに循環型社会に貢献する総合リサイクル企業として市場に注目が高まっている。中期的にも高成長が見込め、過去の時期でも、中期的に見込み、高成長が見込まれた。関心が高まってきた。

19年12月期は44%営業増益

※チャートは日足

高野恭壽の 株式情報

これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

価値損などは不動産なども資産の評価が明確化され、今期の決算で60億円を処理することも相

下落が目立つたほか、7日にルネサスが半導体の生産に連絡を停止し、

3月第2週の東京市場は調整色を強めました。週の半ばまで電子部品は抵抗力をみせていましたが、ニューヨーク市場でそ

当面は調整色強い展開

動き良いディフェンシブ

大日本住友製薬(4506)などは、中期の決算で60億円を出しました。これが失つてしましました。これまで、また、みずからに相

場全体の下落に拍車をかけました。折角戻りのタイミングがみになつたところで警戒材料が飛び出しました。ニューヨーク市場の一段安

を見て日経平均は先物で2万1000円トビ台まで値を崩しました。米国株式の続落や欧州の景気後退が鮮明になつたことや、反発する材料が見当たりません。当面は調整色の強い展開を想定しています。

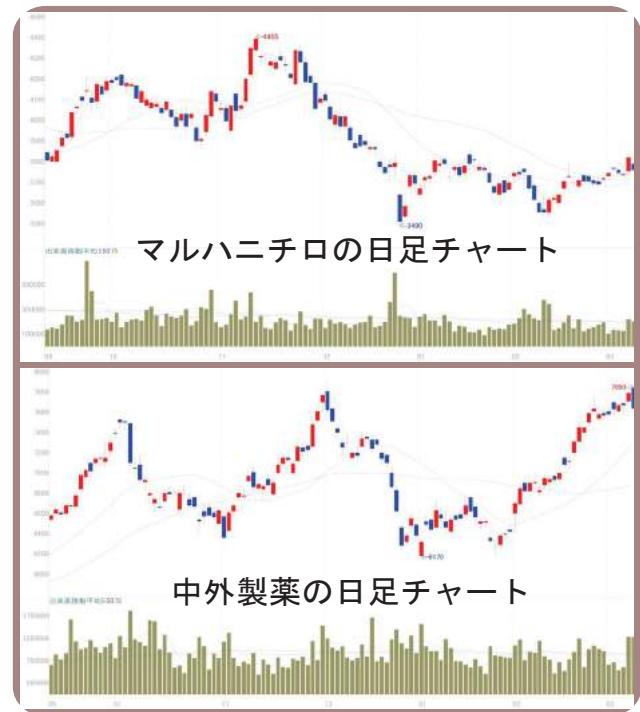
そうした中でマルハニチロ(1333)や日本水産(1332)の水産株、中外製薬(4519)など医薬品が高くなっていますので、当面は調整色の強い展開を想定しています。

大日本住友製薬(4506)も値を保つており、先高を暗示していますので、これらがディフェンシブとして引き続き物色さ

が固まつていくものとみており、突込み場面は引き続き拾う作戦が有効と思っています。

エス(4563)についてですが、次第に値調

が日経平均は更に調整色を強める可能性がありますが、指數構成銘柄ではソフトバンクグループ(9984)に意外高の可能性があります。前回紹介した協和発酵キリン(4151)に加えて、島津製作所(7701)の動きもに変化がでてきました。



ただ言えることは少子高齢化になり、全国均一サービスが無理になつてきたりと。その時代にあつた改革が必要だ。



題がある。

も駅前の電鉄系オーナーでは時給が1200円度、その近隣で個人オーナーの店舗では時給が50円程度の張り紙を見たことがある。当然なら時給が高い店舗にアルバイトは集まるので、ジブランのコンビニでもオーナーが個人か大企業かで、経営の安定度は大きく異なる。

時間営業をめぐり、セブン・イレブン・ジャパン本部と東大阪市のコンビニオーナーが対立していることが問題となつた。24時間営業となると深夜時間帯のアルバイトの確保も難しいところでも筆者の身近なところでよく聞く話。大阪市内では時給が1200円程度ナードの店舗では時給が9元たことがある。当然ながらアルバイトは集まるので、同様もオーナーが個人か大手

New product

期間限定「春のおすすめ」



春のおすすめ　かめと桜海老のぶつ
かけうどん定食」(同815円)、「春の季節天
丼定食」(同908円)。「おらが蕎麦」では「冷
し筍天おろしそば」(同602円)とうな丼定
食(同908円)など。「そじ坊」、「そば野」、「結
月庵」の3店では「うなとろろご飯定食」(同1
093円)、「梅しらす丼定食」(同889円)な
ど。「麦まる」と「杵屋麦丸」では「茎わかめと桜
海老のうどんとカレーライスセット(同62
1円)などを販売している。

来館者10万人を突破

積水ハウス

芸術文化発信「絹谷幸二 天空美術館」



向かって左から名誉館長で画家の絹谷幸二氏、10万人目来館者 萩木亜希子さん

（梅田スカイビルタワー、スト27階）の来館者数が31日に10万人を突破した。「絹谷幸一天空美術館」は、指し、梅田スカイビルに新しい芸術文化振興による社会創造を誕生。国内はもとより海外からも数多くが来館、また小中学校の課外授業の場としても活用され、年間来館者数は初年約3万人、2年目約6万人と来館者数を伸ばし、2年2カ月で10万人を突破するに至った。現在は開館2周年記念特別展示「夢見る力」空想大劇場」を開催中。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

止まつた戻り相場

ETF解約が大きな影響

先週の日経平均は週初こそ高く始まつたが、昨年の下落幅の半値戻しを達成するとさすがに利食い売りが急増し、その後S Qに向けて軟調な動きとなつた。結果局 S Q 値は 2 万 1 3 4 8 円 4 0 銭と 2 万 1 5 0 0 円台には届かずその後も軟調な動きとなつた。先週にもこの欄で書いたが「不況時の株高」が終焉を迎えたようである。ただ、昨年と違つて下落時に相場の動きを増幅させ少していいというのと、「裁定取引の買い残」が少しこれ以上ある。「解消売り」が減が相場を大きく左右することにはなさそうである。その反面、ETFの残高が急増しており、ETFの解約が必要である。今や横並びになつたE T Fを使つた運用に主軸をお

たため、これらを見極めた相場は方通行より一いと動きで上値は重い展開を想定する。

いため、これらを見極めた相場は方通行により一いと動きで上値は重い展開を想定する。

いため、これらを見極めた相場は方通行により一いと動きで上値は重い展開を想定する。

編集後記

今週のスケジュール

- ・ 8 日 米2月雇用統計、米1月住宅着工件数(22:30)
- ・ 9 日 中国2月消費者物価、中国2月生産者物価(10:30)
- ・ 11 日 2月マネーストック(8:50)
米1月小売売上高(21:30)
- ・ 12 日 1-3月期法人企業景気予測調査(8:50)
EU離脱合意内容の是非を問う
米2月消費者物価(21:30)
- ・ 13 日 2月国内企業物価指数、1月機械受注(8:50)
1月第三次産業活動指数(13:30)
米2月生産者物価(21:30)
- ・ 14 日 日銀金融政策決定会合(～15日)
中国2月鉱工業生産、中国2月小売売上高、中国2月都市部固定資産投資(11:00)
米1月新築住宅販売件数(23:30)
- ・ 15 日 黒田日銀総裁会見
米3月NY連銀製造業景気指数(21:30)
米2月鉱工業生産・設備稼働率(22:15)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。